



編集連動「絶景を行く」 北海道観光振興機構の入札案件を獲得！

各地の絶景を一瞬で切り取った堀内洋助カメラマンの好評連載「絶景を行く」をセクション折で実施する提案が、北海道の観光価値を高め、関東地方からの観光客誘致につながるとして北海道観光振興機構に採用された。この「北海道編」は昨年12月22日付と今年1月30日付の2回掲載で、第1弾は、道東の釧路高原のタンチョウと野付半島の別海町のエゾシカを、第2弾は、道東の屈斜路湖美幌峠の朝焼けと道央の美瑛町の青い池、美瑛の丘を取り上げ、どれも印象的な写真となった。

読者からは「この場所に行ってみた」、「他の地域の絶景も見たい」、「春や夏バージョンも」など反響が大きく、北海道観光振興機構の担当者も「北海道の景色を素晴らしい写真に収めてくれた」と大変喜んでくれた。

他の地域でもその土地の絶景をフックに観光客を呼び込み、それが地域振興につながるのではないかと、今後、いろいろ応用できる企画になったと思う。

(東京本社スポーツ部 飯野 基)



〈堀内洋助カメラマンの略歴〉
1954年松山市生まれ。中央大卒。82年、中日新聞社に入社。主に東京新聞写真部で事件やスポーツ、自然などを取材。「富士異彩」と「渡良瀬有情」取材班で新聞協会賞を受賞。東中写真デスクを5年間務めた。趣味は野鳥観察。東京新聞に写真企画「探鳥」（毎週木曜付）を連載して21年に。著書は「再生の原風景」（東京新聞出版部）など。

↑2017年12月22日付 東京中日スポーツ・セクション折



人気の連載企画「絶景を行く」を広告展開。官公庁の入札案件を編集連動企画で獲得！

セクション折の記事下広告には北海道ガイドで「ミシュラン」、道内のショッピングモールの「北海道ロコ」が出稿。



↑2018年1月30日付 東京中日スポーツ・セクション折